



Agri Note



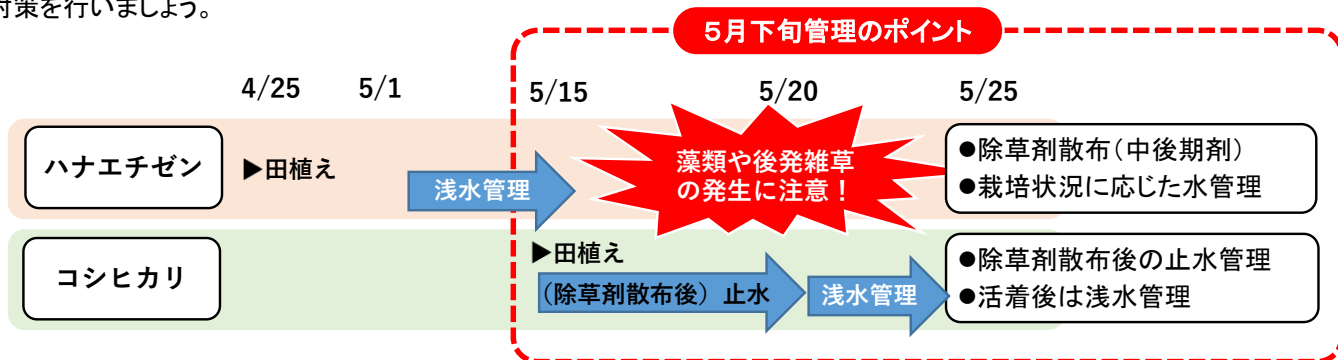
【アグリノート】



ハナエチゼン・コシヒカリ情報

JA福井県

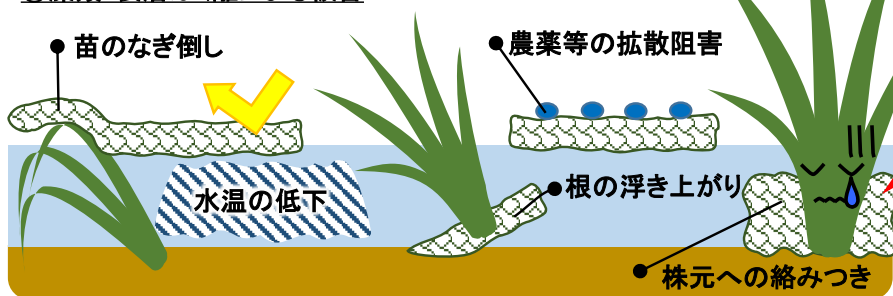
4月上旬から5月上旬にかけては、高気圧と低気圧が交互に通過する周期的な天候となりました。4月下旬に福井市で26.5℃、小浜市で25.1℃など、県内各地で25℃以上を記録する夏日があった一方、5月上旬は前線の影響でぐずつく日もあり、寒暖差の大きい気候となりました。連休植えのハナエチゼンや、5月中旬から本格的に始まったコシヒカリの様子はいかがでしょうか。今後気温が高くなると、後発雑草や藻類、ワキ(ガス)の発生が懸念されます。圃場をしっかりと観察し、対策を行いましょう。



1. 圃場の観察・早期の対策！ (連休植えのハナエチゼン)

各圃場の状態や、発生する雑草の種類を把握しましょう。藻類は多発すると、稲体に悪影響を及ぼしますので、対策を行いましょう。また苗と雑草では成長スピードが異なります。葉齢にも注意し、発生する雑草を抑えるのに適した除草剤を選択しましょう。

① 藻類・表層はく離による被害



藻類の発生時には専用除草剤“モゲトン粒剤”で防除を行いましょう。



【モゲトン粒剤使用方法】

時期: 藻類・表層はく離の発生時
収穫45日前まで
使用量: 2kg / 10a (3回以内)

② 水田に発生する雑草への対策

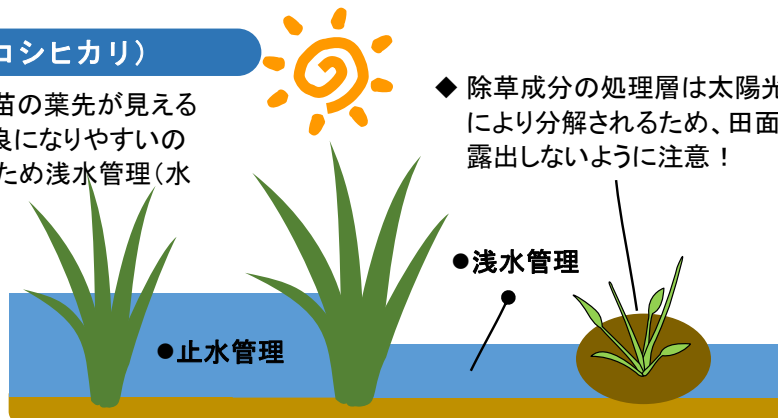
- ◆ 中後期除草剤の選択(最初の除草剤と同一成分の除草剤は避けましょう)
- ◆ ヒエや広葉雑草等の後発雑草に対して、中期・後期の除草剤を散布する
- ◆ 雑草を抑えるために適した除草剤の選択と使用を行う

★ 除草剤のお問合せは、
各支店・センターの営農指導員まで

2. 生育初期の水管理 (五月半ば田植えのコシヒカリ)

田植え直後は、苗の活着を促すため5日前後は苗の葉先が見える程度の深水にしましょう。低温や深植えは活着不良になりやすいので注意が必要です。活着後は水温・地温を高めるため浅水管理(水深2~3cm)を行い生育を促しましょう。

- ◆ 除草成分の処理層をしっかりとつくるため、除草剤散布後5日程度は止水管理(落水・入水をしない)を行う(除草効果を長く持続させることができます。)



★ 適正な水管理で初期生育を促し、かつ除草効果を最大限発揮させましょう!!